

# 月刊 千葉労働動力

国鉄千葉動力車労働組合

〒260 千葉市中央区要町2番8号(動力車会館)  
電話 (鉄電) 千葉 2935・2936 番  
(公) 043 (222) 7207 番

94.3.28 No. 3967

## 新小岩・佐倉拠点 怒りの春季才2波突入

三月二十九日、十三時前拠点突入

われわれは、新小岩・佐倉支部の仲間を先頭に、春季第一波ストを断固闘いぬいた。

しかし、JR貨物当局は、われわれの切実な賃上げ要求に応えず、超低額回答を示そうとしている。われわれは、断じて許せない。

われわれは、新小岩・佐倉支部を拠点に第二波ストに決起する。

この間貨物会社は、パブルのなかで黒字であった。しかし、ベ・アや一時金に旅客会社との格差をつけ続けたのである。貨物会社は、赤字を理由にこの秋には基地統廃合・動乗勤改善を計画しているのである。

まさに、全ての犠牲は労働者に

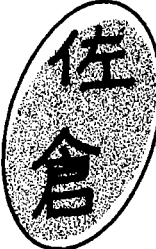
転嫁する資本(主義)の本質がここにむきだしとなっている。

また、分割・民営化の矛盾が貨物会社に集中している。「五〇億の赤字」を言いながら、旅客会社に「二二〇億のレール使用料」を支払っているのだ。

このような分割・民営化の矛盾を粉砕する闘いとして、旅客の仲間も含め、春季第二波ストに総力をあげて決起しなければならぬ。

われわれは、新小岩・佐倉両拠点で、JR労働者の怒りを体言してストに起つ。当局の先兵・裏切り者JR総連・日貨労を徹底弾劾し、第二波ストに決起しよう！

3/24各拠点で第一波スト貫徹



佐倉支部では、朝岡乗務員副会長が、新小岩機関区において二四日正午よりストに突入したことを皮切りに、一四時に地上勤務者がストに突入しました。

また、地上勤務者のスト突入と同時に佐倉機関区において開催された「スト突入集会」は、スト突入者一五名を先頭に勤務外の組合員も結集するなか、本部より派遣された山口執行委員(総連合交渉部長)、高石総務部長を加えて、行なわれました。

決起集会に続き、職場問題でのフリー討論を行い、千葉市で開催された本部主催の決起集会に間に合うぎりぎりの時刻まで活発な意見交換を行い、夕刻の集会へと参加してきたところだ。

佐倉支部としては、春季第一波スト決起を通して

(1) 役員と組合員との一体感が深まった。

(2) 基地統廃合反対闘争への闘いに自信が湧いてきた。

という成果が確認できます。

佐倉支部は、今後も貨物会社の低額回答を許さず三・二九第二波ストに決起する決意です。(佐倉支部支部長・宮内正志)

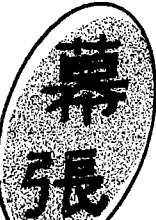


写真3-24 幕張支部スト突入集会

幕張支部は、幕張電車区本区を拠点として七三名(信号業務を除く勤務者全員)が、一三時を期して一斉にストに突入した。

ストに突入した組合員が結集場所となった千葉市文化センターに続々と結集するなか、一四時より幕張支部としてのスト突入集会を白井副支部長が司会を務めるなか開催された。

あいさつにたった石幡支部長は、「組合員が高齢化し、構内外注化をはじめとする合理化攻撃が迫るうとしていながら、いまこそ労働条件確立の闘いに全力をあげなくてはならない。」と切実な思いを込めて組合員に訴えた。

また、翌日開催された車両技術分科会の総会・親睦会では、今年度五五才を迎え、出向や休職とな

### 第一波スト貫徹 千葉総決



幕張支部は、本第一波ストと車両技術分科会の取り組みを通じてより一層の団結を固めた。そして、今後の全面的合理化攻撃、出向先の労働条件確立、そして小集団活動を通じた組織破壊攻撃に全力で立ち向かって行く決意である。(幕張支部支部長・石幡佳和)

### 謹んで哀悼の意を表します

三月一二日、幕張支部・内田鵬太郎さん(五四才)は、交通事故のため逝去されました。

三月二六日、新小岩支部・山村勝さん(三五才)は、脳腫瘍との闘病生活を送られていましたが逝去されました。

ご冥福をお祈り致します。

国鉄千葉動力車労働組合